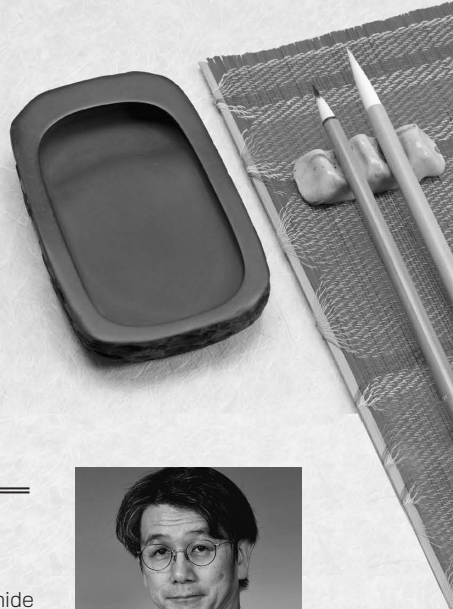


化学教育 徒然草



— 高校生の研究に伴走しながら —

MATSUTAKA Kazuhide

松高 和秀

佐賀県立致遠館高等学校 教諭, 佐賀県 スーパーティーチャー (理科・ICT),
日本化学会九州支部化学教育協議会 佐賀県幹事



高校では「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」となり、一般の高校生が通常の授業でも探究活動（課題研究）に取り組む機会が増えてきた。高校生が自分で研究テーマを設定し活動する機会はこの時間に限られる場合も多く、観察・実験・調査の進め方をあてもない、こうでもないと考え、得られた結果に一喜一憂しながら悪戦苦闘している姿にほほえましく思いながら伴走している。この探究活動や課題研究の指導等を通じて、今の高校生は大学の先生方と接する機会が増えてきている。私が高校生の頃は大学の先生と接する機会などほとんどなかったの、今の高校生はとても恵まれているなあと、心からうらやましく感じている。

研究活動に魅力を感じた高校生の中には、個人で研究を進めていく生徒もいれば、科学系部活動に所属して、毎日、放課後の理科室で観察や実験に励む生徒もいる。研究を通して結果が得られれば、それを伝えたいというのも納得である。伝統ある日本学生科学賞は今年で70回を迎え、文化部のインターハイである全国高等学校総合文化祭の規定部門に自然科学部門が加わって16回となった。予選となる都道府県大会を含め、高校生の大きな成長や将来の進路へと繋がる機会を作っていただいていることに、ただただ感謝、感謝である。

本県でも昨年で78回を迎えた佐賀県児童生徒理科研究発表会や、佐賀大学で実施していただいている佐賀県理科・化学教育研究発表会（昨年で24回目）等では、小学生から高校生（大学生）までが一堂に会して発表する機会を作っていただいている。こうした草の根の活動が児童・生徒の理科（科学）への興味・関心を高め、ひいては我が国の科学技術の発展に寄与していると確信している。

研究活動を行うためには、土台となる基礎学力の向上も不可欠である。日々の化学の授業がそれに当たるとすれば、化学の授業と探究活動は車の両輪とも考えられる。研究活動を通して自分に足りないと感じた知識や理解を授業で補い、化学の授業で学んだことを研究活動に活かしていく。そうして自分の資質・能力を高めていくことのできる今の生徒たちが、とてもうらやましく思える今日この頃である。

[連絡先]

849-0919 佐賀県佐賀市兵庫北四丁目1番1号（勤務先）